

SHIRO TORI 通信

Vo.19

2018 spring

株式会社 城取建築設計事務所

今月の地元パワーは

松本で初のクラフトビールの
醸造を手掛ける会社

「松本ブルワリー」

「マツモトブルワリータップルーム」さん

城取設計ニュース

オススメ！この一冊

建築ニュース

建築探訪

建築設計の仕事

実録！地元のチカラ この街の企業

cafetias

営業コラム





建築 NEWS

松本本社「信毎メディアガーデン」開業

4月28日(土)正午に、信濃毎日新聞の松本本社の新社屋「信毎メディアガーデン」(松本市中央2)は全面開業しました。オープン初日から早速大勢の市民が訪れました。

新社屋は世界的建築家の伊東豊雄さんが設計。地下1階、地上5階で延べ床面積8143㎡。1～3階がコミュニティゾーンと11店舗が入るショップゾーン、4、5階が松本本社、MGプレス編集室になります。国宝松本城に近く、オフィス機能以外に市民が気軽に外出する場も設けた複合型施設です。



西側玄関前の屋外広場「スクエア」で、招待者ら約300人を前に関係者らがテープカットして開業を祝福しました。その後、招待者らは新社屋を見学し、セレモニーに先立ち竣工式も開かれました。

1階ホールでは、松本市美術館で開催している同市出身の前衛芸術家草間弥生さんの特別展に合わせた作品展示も始まっています。

新社屋は免震構造や自家発電設備を備え、震度6程度の地震が起きても通常通り新聞製作ができるようになっています。



城取設計 ニュース

城取設計のリクルート活動

新年度も迎え早いもので5月となりました。この時期に多く見るのがフレッシュな新入社員で、会社訪問するととても初々しい姿を見ることが出来ます！

前回のニュースレターでも書かせてもらいましたが、弊社も来年度新入社員採用に向けて本格的に動いています。

5月11日現在で2回の会社説明会をさせていただき、将来設計士を目指す若者と話す機会がありました。少々緊張する若者を前に会社の歴史・企業理念・大切にしていることや将来展望など話をさせてもらい、またせっかくなのでいただいたので現在手掛けている建築物件と一緒に見てもらったり、弊社設計士を前に卒業建築作品のプレゼンをしてもらったりと、こちらとしてもとても勉強になる機会となりました。



まだ面談途中でありますが来年の4月には2名の新入社員を仲間に加え、創業55年の歴史・想いを引き継ぎ伝承していきたいと思えますので応援よろしくお願います。(またこのニュースレターでも紹介したいと考えています)

おススメ

この一冊

「江副浩正」

馬場マコト・土屋洋(日経BP社)

自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ 稀代の起業家「江副浩正の仕事と生涯」正伝

この『江副浩正』という書籍は、戦後最大の起業家と呼ばれたリクルート創業者・江副氏の生い立ちから死の瞬間までの壮絶な人生が順を追って書かれています。

著者の馬場氏土屋氏は、リクルート同期入社の人同士で、江副氏の下で働いた経験があります。

江副浩正氏の名前は、一般にはリクルート事件と併せて語られることが多く、一大事件の主人公として昭和史、そして人々の記憶に深く刻まれることになりました。

この鮮烈な記憶が、起業家としての江副氏の実像を覆い隠しているのかもしれない。

創業して50年以上経つにも関わらず、



ならず、創業者が去った後も企業価値が高まり続けるリクルート。彼が残したのは、やはり企業文化の形成ではないかと思えます。

この書籍は、ビジネスに携わる人間なら黙って読め！と言いたいくらい、本当にお勧めできる書籍になっています。



馬場マコト・土屋洋著
定価：本体2,200円＋税
発売日：2017年12月25日
形態：四六判(496ページ)

建築探訪

馬見原橋

熊本県蘇陽町馬見原の中心の五ヶ瀬川に、町活性化の起爆剤として、単に視覚的に目立つモニュメントではなく、住んでいる地域の人々の心に育つていくようなシンボルとなることを意識し馬見原橋が建設されました。かたちは、道から歩いてくる人の体験の連続性を保つことを考慮して決定されたもの。ただし、単なる交通のための橋ではなく、人々が自然に留まれる場としての橋に進化させることが試みられました。

車と歩行者のための通行用の上の橋はシメナワのかかった夫婦岩の間に吸い込まれ、下の歩行者専用の橋は「逆太鼓橋」として川面に近づき、町で育てられた杉の板張りに開いた、ふたつの丸い穴から川を見下ろせます。

さまざまな過ごし方が楽しめる憩いの場が出現しています。



特集

施工事例

創業55年を迎えた城取建築設計事務所が手がけた設計作品を紹介します

歴史と文化を後世に残し地域の魅力を発信する拠点と考え
過去から未来へつなぐ施設を作ります。

施工事例

中廊下の
羽目板張りで
山並みをイメージ
躍動感が生まれた

建築概要

- 名称：箕輪町沢保育園
- 発注者：箕輪町
- 所在地：長野県上伊那郡箕輪町
- 構造・階数：W造・平屋
- 延床面積：1965.28 m²

保育施設は、子供さんにとって初めて慣れ親しんだ家族以外の人々と、生活を共にする空間です。

子供たちの「いえ」である保育室と「ひろば」としての遊戯室を中廊下で有機的につなぎ、年少さんから年長さんが、自分の「いえ」だけでなく自由に行き来できるようにしました。

また、保育室以外に中廊下の各所に読書コーナー、ベンチ、中庭等の子供たちの居場所を設け、先生、同い年の友達、年の違う友達とのコミュニケーションの場を設けることにより、保育建築に求められている社会性獲得空間となると思います。

外観は、前保育園の鉄骨柱の頭にあつた赤色の三角形のトンがり帽子のイメージを残してもらいたいとの要望があり、読書コーナーの屋根をとんがり帽子とし、自分たちの保育園を、視覚的に解るようにしました。

建物の構造は、木造とし、各所に羽目板を張り、温かみのある空間づくりに心掛けました。特に、中廊下の羽目板張りは、1枚1枚の高さを違い、山並みをイメージしたデザインとしました。このことにより単調になりがちなか廊下に、躍動感を生み出すことが出来ています。

遊戯室の木トラスの鉄骨は、先生たちと協議し三色で塗り分け、鉄骨の堅いイメージを払しょくし、楽しい空間となつたと思います。





カフェタイズ
伊那市西町 5863-1
www.cafeties.com

営業時間
月～木 11:00～18:00
金 日 11:00～21:00
土 日 10:00～21:00
日 10:00～18:00

祝 3周年を迎えました!!

tiesは4月10日で3周年を迎えました。ここまで営業してこれたのも皆様のおかげです、ありがとうございます。これからもおしゃれなお店作りを目指していきたく思いますのでよろしくお願い致します。3周年記念ということで店内の家具も新しくなりました。また宴会、Weddingでさらに楽しんでいただけるようにドリンクコーナーを設置致しました。15種類の中から好きなお酒を作ります。是非ご利用ください。



実録

地元のチカラ

この街の企業

松本ブルワリーは、松本市初のビール製造会社を目指して、2014年からスタートした「ビアフェス信州クラフトビールフェスティバル in 松本」の実行委員らが中心となり、2016年1月設立しました。同年4月には本社併設の「マツモトブルワリータップルーム」もオープンし生ビールを楽しむことができます。

小規模な醸造所（ブルワリー）が独自の味や質にこだわってつくるクラフトビールは近年注目を集めており、全国各地でビアフェスが開かれています。2014年は約1万6000人が訪れた同フェス。県内には10を超える醸造所があるが、松本市内にはなく、来場者からは「松本のビールが飲みたい」という声が多く寄せられたといえます。



同実行委員会・企画運営で、市内でバーや飲食店を経営する林幸一さんが社長に就任。「コンセプトは『取りあえず』じゃない、『とっておき』のビール。松本ならではのおいしいビールをつくりたい」。ペールエール、スタウトなどのほか、リンゴなどを使ったフルーティビールなど10種類以上の

松本で初のクラフトビールの醸造を手掛ける会社「松本ブルワリー」

マツモトブルワリー
タップルーム
(松本市中央)



醸造を目指しています。

原料の麦やホップ、果物などは地元産を使い、ビールの搾りかすは飼料にして農業振興に貢献するなど、「地元の人に喜んでもらえるような、地元が潤うような商品をつくりたい」と林さん。地元飲食店での販売や、土産物への展開醸造所の見学など、食文化として根付かせ、観光面での地域貢献も視野に入れています。

松本ブルワリーには、販売用トレーラーがあります。様々な場所で多くの方にビールを飲んでもらいたい・・・そして、多くの方と素敵な出会いを求めて元気に出動します。見かけたら、お気軽に声をかけてください！

会社の紹介
松本ブルワリー



株式会社 松本ブルワリー
長野県松本市中央 3-4-21
TEL:0263-31-0081
http://matsu-brew.com/

BREWERY=私たちの夢です!!

松本市内には、北アルプスや美ヶ原の山々を水源とした、全国的に知れ渡る「美味しい水」が湧き上がっています。その水を仕込み水として、更にはホップや麦そして果物などの地元の農作物を使用したこの地域ならではの魅力をぎゅっと詰め込んだビールを造っていきたくと思っています。

営業コラム



3月末に毎年恒例の息子と甲子園まで行ってきました。昨年の夏は松商学園の試合を見に新幹線に乗って甲子園駅まで行くと、そこで「本日の試合は明日へ順延となりました！」のアナウンス。次の日は予定もあつたので悔しい思いをして帰ってきました。ですのでこのセンバツは気合もいれ丸2日間合計7試合ガッツリ観戦してきました。

バックネット裏は面白い光景を見ることができ、プロ野球のスカウト・ご存知の方も多いうらやうお

じさん・少年野球の子どもたち、写真を何百枚と撮影する人など、高校野球を愛する人たちを見るのが出来ます。そんな高校野球フアンの一人が我が息子です。息子の知識はオタク並で注目選手の野球技術データはもちろんのこと、学校での成績や趣味まで、学校の情報や監督情報まで細かい情報がインプットされています。そんな息子の解説を聞きながら試合を面白く楽しませて観戦させていたたきました。さて今年の夏の甲子園は何日見に行こう。



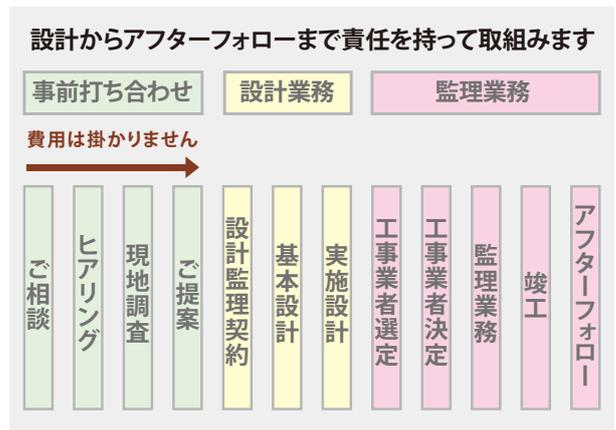
時代の流れと共に、生活環境や価値観も変化し続けています。
 私たちは、今の時代にあった環境づくりと、そのために必要な技術の向上を目指し、
 そして、明るい未来づくりのために、今後も走り続けていきます。

城取設計は城取義直が1963年に創立した会社です。創立当初は「構造設計を持って設計する会社」が少なかったこともあり、全国レベルでの建築設計に取り組んできました。当時としては斬新な構造設計の技術などが買われ、多くの依頼を頂くようになりました。先代である城取義直は技術革新を事業コンセプトに掲げ、情報収集に尽力を費やしていました。職人さんの技術向上のために最先端のスキルや情報を惜しみなく学ばせていました。例えば、塗装の塗り方ひとつにとっても職人さんの技術向上に役立つものであれば、職人さんと一緒に現地見学に行ったりもしました。その積み重ねが確かな自信と経験を生み、会社を成長させる原動力になりました。先代の職人を大事にする気持ちが、今日の城取設計を作ったと言えます。



城取建築設計事務所のポリシー

建物を作ったという実績のみならず、仕事に対しての情熱や誠実さが評価されての実績だと、私たちは考えております。施主様の満足が続く建物を作り続けること。継続的なアフターフォローを通じて、責任を全うすること。一般建築物よりも建築基準が高い公共施設の設計技術を一般建築物にそのまま反映させる姿勢がお客様と施工者との信頼関係に繋がっていくのだと思います。妥協を許さない姿勢、費用面を含め、気軽に相談できる体制に親しみを感じていただければ、幸いです。



株式会社 城取建築設計事務所

- 創立：1963年4月1日
- 代表取締役：城取健太
- 資本金：1000万円
- 登録：（伊那）L第2Y051号
- 取引銀行：八十二銀行 伊那支店
アルプス中央信用金庫 本店
- 所属団体：（社）長野県建築士事務所協会
（社）長野県建築士会

- 事業内容
 - ・ 建築・構造・設備に関する企画・設計・監理
 - ・ 医療福祉施設に関する企画・設計・監理
 - ・ 商業施設に関する企画・設計・監理
 - ・ 環境・地域計画に関する計画・設計・監理
 - ・ 建物構造調査・診断・設計・監理
 - ・ 既存建物の改修・リニューアル計画・設計・監理

■ 本社
 長野県伊那市西町 5863-1
 TEL：0265-72-7271
 FAX：0265-72-7270

